

令和4年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

2年

教科	指導上の課題の分析	授業改善の具体的な方策	評価（成果と課題）
国語	<p>○漢字の字数が増え、難易度が上がり習熟度に関きが見られる。約80%の児童が既習漢字の殆どを正しく書くことができている。</p> <p>○話す、聞く活動については、クラス間で実態の違いがあるものの、自分の考えを発表することが苦手な児童は各クラス50%程居る。</p>	<p>○学習した漢字は漢字スキルノート宿題に出し、繰り返し練習に取り組めるようにする。その上で、漢字のミニテスト等でこまめに定着具合を確認する。</p> <p>○「聞き方名人あいうえお」を提示し、聞き手の姿勢を育てることにより、話し手の意欲を喚起する。また、グループ・ペアなど、話し合いの形態を工夫して活動させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の学習で既習の漢字を使わず平仮名で書く児童が多く、定着に差が出ている。 ・物語文を読む際に、心情や情景の変化、因果関係を読み取ることが難しい児童が多く見られる。 ・書くことにおいて、文章構成に気を付けて内容を整理して書くことが難しかったり、語彙の不足が見られたりする。
算数	<p>○計算や測定など知識・技能面では、到達度は90%ある。一方で、思考・判断・表現については個人差が大きく、問題把握レベルから課題が見られる児童（到達度50%前後）もいる。</p>	<p>○習熟度別の指導を取り入れ、技能面、思考面共に、児童が躓いているところまで戻って学習を進めるなど、サポートしながら指導をする。</p> <p>○引き続きノート指導を重視し、書く活動により算数を構造的に理解できるよう促していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・かけ算やわり算等で、単純な計算問題には自信をもって取り組めるが、「なぜその答えになるか」という問いや、文章問題で式を立てることに苦手意識をもつ児童が多い。 ・九九を実用的に使用できるまで身に付けられていないため、応用的なかけ算の問題やわり算の計算に大きく支障が出ている児童が見られる。
生活科	<p>○観察や探検などが多いため、児童は楽しく授業に参加できる。一方で、自分の願いや思いを言葉にできない児童が30%程度見受けられる。</p>	<p>○教科を横断的に学習する計画を活用し、書く活動を増やすことで、語彙力を身に付けさせる。</p> <p>○活動をふり返る時間を確保し、次回以降の活動に見通しがもてるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や探検などが多いため、児童は楽しく授業に参加できていた。 ・自分の願いや思いを言葉にできない児童が見受けられる。

図工	<p>○自分の描きたい、作りたいものを楽しんで作ることができる。一方テーマがないと作品作りに取り組めない児童や、ねらいとなる技法を活かすことが難しい児童もいる</p>	<p>○活動に入る前にねらいとなる技法を言葉だけでなく具体的な絵や映像で確認し、作品に活かせるようにする。</p> <p>○自分の好きなものを明確にすることや、自分のやりたいことを言葉にするようにしてから作品作りに取り組めるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の描きたい、作りたいものを楽しんで作ることができる。 ・テーマがないと作品作りに取り組めない児童や、ねらいとなる技法を活かすことが難しい児童もいる
体育	<p>○体を動かすことが好きで意欲的に取り組める児童が多い。一方、成功したときの体の動かし方や自分の習得した技術のポイントなどを言葉にして相手に伝えることが難しい様子がある。</p>	<p>○授業の中で、話し合う活動も積極的に行い、良かった点や改善点などを自分たちで言い合えるような環境づくりをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きで意欲的に活動へ取り組める児童が多い。 ・友達のよかったところや自分が上手くできたときの体の動かし方などを言葉にして相手に伝えることが難しい。 ・ゲームのルールを理解し、友達と話し合っって作戦を立てる技能に個人差がある。